

UBIC

University-Business Innovation Center

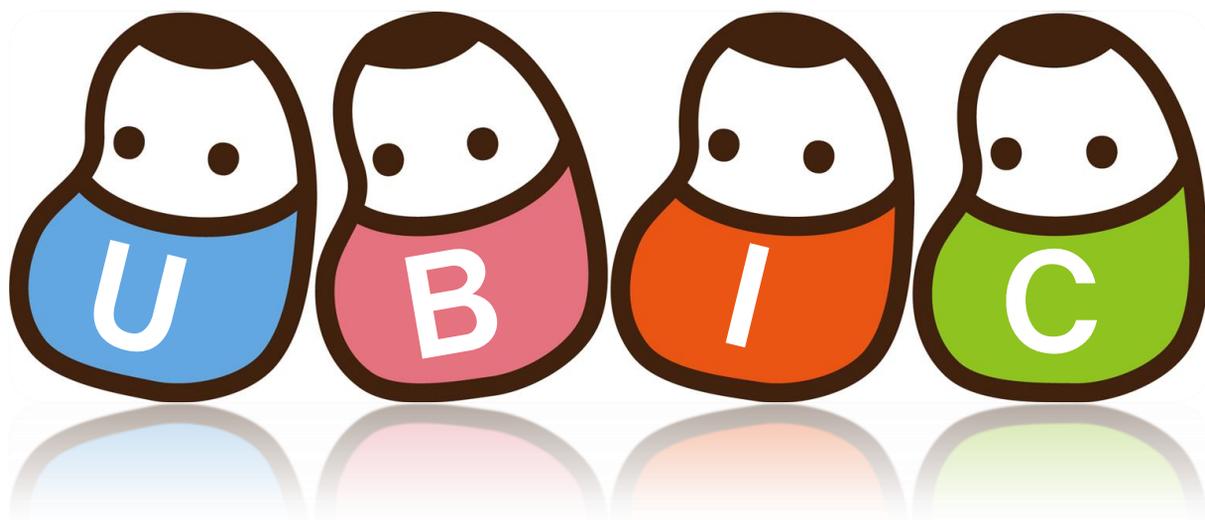
会津大学

産学イノベーションセンター



会津大学

福島県会津地方の伝統的な民芸品「起き上がり小法師(おきあがりこぼし)」は、転んでも転んでも起き上がる姿が七転び八起きの精神の象徴として愛され、震災復興のシンボルにもなっています。



- 産学イノベーションセンター(UBIC)の概要 … P1
- UBICの活動紹介 … P3
- 共同研究等について … P9
- UBIC教員等の紹介 … P11
- 関係資料・データ … P12
- UBIC利用案内 … P13
- (巻末付録)会津大学復興支援センター設立について

2013年3月発行
UBICニュース

第11号

イノベーションの創出、 産業の振興・発展を目指して

会津大学産学イノベーションセンター(略称:UBIC(ユービック))は、会津大学と企業や地域が連携して研究を進めていくための産学官連携の拠点施設です。

地域や企業に開かれた総合窓口として、企業等との共同研究をはじめ、大学の研究や特許の紹介、大学発ベンチャーや起業家の育成、各種セミナー等を開催することにより、産学連携を推進しています。

また、企業等の技術相談や経営相談等に応じるとともに、企業と大学研究者とのコーディネート活動を行い、産業創出・地域活性化のために活動を進めています。

UBICセンター長あいさつ

会津大学は、最先端のコンピュータ理工学の研究・教育を活かし、福島県内外のICT関連企業、大学発ベンチャー、福島・会津地域の方々との産学官連携を強力に進めることで、産業の活性化とICT人材育成による雇用拡大を目指します。

今後も本学の先端ICT研究と国際性を活用し、震災復興に貢献し、豊かで美しい福島県の再生と福島・会津のグローバルレベルのICT拠点化に努力して参ります。



いわせ じろう

岩瀬 次郎 (会津大学理事 兼 産学イノベーションセンター長)

札幌生まれの京都育ち。京都大学工学部、同大学院卒。
日本IBM入社後、米国エール大学大学院へ留学、Applied Science & School Management 修士。
日本IBMにおいて、コンピテンシー企画管理、ソフトウェアエンジニアリング、スキル開発マネージャを歴任。
平成19年4月より会津大学理事。
平成22年4月、産学イノベーションセンター長に就任。

UBICの役割

会津大学は、『地域から世界へ』と『to Advance Knowledge for Humanity(人類の平和と繁栄に貢献する発明と発見の探求)』を建学の理念とし、研究・教育を基盤に、地域社会・産業振興への貢献を目指しています。

UBICは、大学と産業界、地域を繋ぐ一元的な窓口として、イノベーション創出、産業の活性化・発展への寄与、地域社会との協業を行うとともに、国内外の大学や研究機関とのネットワークにより、一大学の枠を超えた産学官連携の繋ぎ“ゲートウェイ”の役割を担っています。



会津大学(全景)

会津大学は、人口13万人の城下町、会津若松市の郊外に位置し、周りを田園に囲まれた緑豊かな素晴らしい環境にあります。会津地域は、古くから地場産業が盛んで観光資源にも恵まれています。1993年に会津大学が開学して以降、ITベンチャーが数多く誕生しています。

主な活動

- 産学官連携の推進
- 共同研究・受託研究等の推進、外部資金の導入
- 企業等からの技術相談や経営相談
- 人材育成、大学発ベンチャーや起業家精神の育成
- 知的財産の管理・活用
- 研究成果の紹介、研究者の技術シーズの情報提供
- 最先端IT情報を発信する産学官連携フォーラムの開催
- IT関連の各種講習会の開催
- 施設の提供
- 一般の見学の受け入れ



UBICのエントランスホール
大学と共同研究を行っている花咲けピクチャーズ(株)のオリジナルキャラクター『花咲けミー!』が、入口でお出迎えます。

会津IT日新館ライブラリー
UBICのライブラリーでは、起業に関わる図書やビジネス書などを自由に閲覧することができます。



UBICのオープンスペース

オープンスペースは、打合せ等に気軽にご利用いただけます。また、産学連携の各種イベント等も開催できます。

地域・産業界との連携

UBICは、積極的に地域・産業界との産学官連携活動に取り組み、新産業の創出や地域活性化の促進に貢献しています。

ANFモーニングサロン

ANFモーニングサロンは、会津大学と会津産業ネットワークフォーラム(ANF)との共同企画により、産学官連携の仕組みづくりと会津発ビジネス育成を目的として、平成22年度にスタートしました。

朝の会合では、ANF会員企業の講演や、会津大学教員の研究成果等を紹介することで、互いの技術やニーズを知り理解を深めてきました。これを契機とした産学連携プロジェクトも生まれています。

ANFについて

会津産業ネットワークフォーラム(ANF)は、会津地域の振興に企業の立場から取り組み、地域とともに成長、発展することを目指し、地域に根ざす製造業を核とした企業間の連携組織です。



会合は朝7:30~9:00に学内レストランで開催。

ワンコイン(500円)で朝食を楽しみながら、情報交換を行います。

ANFモーニングサロン発

連携プロジェクト <ロボット開発>

ANFモーニングサロンで成瀬上級准教授(情報システム学部門)の研究を紹介したことを契機に、大学とANF会員企業の共同プロジェクトチーム「アイガモツ」が結成されました。

現在、高効率・低価格で安全な水田除草用複数移動ロボットシステムの開発に共同で取り組んでいます。このプロジェクトには、UBICの産学官連携コーディネーターも参加しています。



会津大学“雲”サロン

会津大学“雲”サロンでは、会津大学発ベンチャー有志との協業により、最新のICT(情報通信技術)に関する情報交換会を定期的に開催しています。会議では、会津地域のIT企業や自治体の関係者、会津大学の教員や学生が参加し、活発な意見交換が行われています。



開催実績(H24年度)	テーマ・講師
H24/05/17	<ul style="list-style-type: none"> ■会津ラボの取り組みについて (株)会津ラボ 代表取締役 久田 雅之 氏 ■会津大学の取り組み状況について 会津大学 理事 岩瀬 次郎
H24/06/28	<ul style="list-style-type: none"> ■産業創出と雇用活性化、そして復興への提言 ～福島イノベーションセンターの取り組みについて～ アクセント(株) 福島イノベーションセンター長 中村 彰二郎 氏
H24/07/26	<ul style="list-style-type: none"> ■情報共有化社会における事業展開とIT人材育成の取り組み (株)T&コミュニケーションズ 代表取締役 遠藤 太郎 氏
H24/09/20	<ul style="list-style-type: none"> ■iOSアプリ「R49」の開発について 豆腐屋おはら 店長 小原 直樹 氏 ■iOSアプリ「指さしナビ®～湯川村・会津坂下町～」キャンペーン企画の紹介 (株)会津ラボ 代表取締役 久田 雅之 氏
H24/10/12	※会津IT秋フォーラムの「会津大学発ベンチャーのポスターセッション・展示」に出展
H24/11/29	<ul style="list-style-type: none"> ■Kinectによるインタラクティブサイネージ、インスタレーションの事例紹介 (株)デザインウム 代表取締役 前田 諭志 氏 ■スマートフォンの動向と最新情報 (株)GClue 代表取締役 佐々木 陽 氏
H24/12/20	※交流会(フリーディスカッション)
H25/01/31	<ul style="list-style-type: none"> ■「地方で仕事をするクールさ」と「地方間連携」について Fandroid EAST JAPAN 地方連携担当 藤井 靖史 氏
H25/02/28	<ul style="list-style-type: none"> ■国内外クラウドソーシングの現状とその利用事例 富士通(株) 技術経営修士 熊野 健志 氏 (株)松竹マルチプレックスシアターズ 部長 井川 甲作 氏

会津大学“雲”サロン発

マッチング事例 <ご当地観光ナビ>

会津大学“雲”サロンでの情報交換をきっかけとして、(株)会津ラボが、湯川村と会津坂下町の『指さしナビ®』を委託開発することになりました。

これは、ご当地観光ナビゲーションシステムで、iPhoneアプリを使って、湯川村のご当地キャラクター“ゆがわまいちゃん”と、会津坂下町のご当地キャラクター“バンビィ”が、2つの町村を案内してくれます。



研究技術説明会

会津大学が有する研究成果や特許等について、企業関係者等を対象とした研究技術説明会を開催しています。

説明会では、大学教員自らが実用化を想定した説明をすることで、企業ニーズとのマッチングを図っています。また、これらの説明会を通して、産学官連携コーディネーターを中心に企業の要望に応じた技術相談を行うことで、産学官連携を推進しています。

会津大学ニューテクノロジーセミナー

開催日：平成24年11月26日(月)
会場：ビッグパレットふくしま(郡山市)

セキュリティ

画像に基づくユーザ認証新技術
(教授 趙 強福)

ヘルスケア

無拘束で心拍数、呼吸数、体動を測定することができるモニタリングシステム
(准教授 朱 欣)

ソフトウェア工学

モデル・コード・ドキュメントを記述するプログラミング言語*AIDA
(准教授 渡部 有隆)

ユビキタス

指の動きによる家電等のリモート制御技術
(准教授 荊 雷)



会津大学新技術説明会 共催:(独法)科学技術振興機構

開催日：平成25年2月8日(金)
会場：JSTホール(東京・市ヶ谷)

画像認識

空中文字や複雑な動作のカメラ映像からの識別手法
(特別荣誉教授 岡 隆一)

パターン認識

統計的手法を用いて個人の筆跡を模擬した文字を生成する手法
(上級准教授 慎 重弼)

セキュリティ

画像合成に基づく情報隠蔽新技術
(教授 趙 強福)

センサネットワーク

カスタマイズ可能な大規模センサネットワーク
(教授 宮崎 敏明)

ヘルスケア

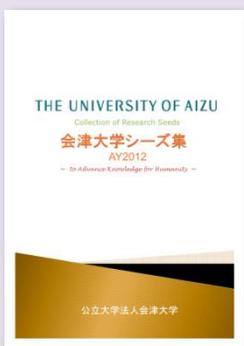
睡眠時に計測した体温と心拍数による生理周期の自動推定
(教授 陳 文西)



UBICでは、毎年、大学の研究成果や技術をまとめたシーズ集を発行しています。是非ご活用ください。

※シーズ集は、UBICホームページでもご覧いただけます。

<http://www.ubic-u-aizu.jp/kenkyu/gijutsu-bunyabesu.html>



UBICでは、企業等からの技術相談や産学連携のマッチング相談を随時受け付けています。

IT関係のご相談に限らず、ものづくり現場でお困りのことなどもお気軽にご相談ください。全国の大学等とのネットワークで解決のお手伝いをいたします。

【相談窓口】産学イノベーションセンター(UBIC)

☎ 0242-37-2776(代表)

✉ ubic-adm@ubic-u-aizu.jp

産学官連携フォーラム

産学官連携の推進事業として、最先端のICT情報を発信する「会津IT秋フォーラム」や、企業経営の向上や地域経済の活性化を目的とした「産学連携フォーラム」を開催しています。

会津IT秋フォーラム2012 ~Revitalization from AIZU~

平成19年度より、会津地域をITの先進地とすることを目標に掲げ、「会津IT秋フォーラム」を開催しています(※平成21年度までは「会津ITサマーフォーラム」として開催)。ITに関わる企業人、研究者、学生が一同に集い、会津から全国へ向けて最先端のIT情報を発信しています。

6年目となる平成24年度は、IT産業の振興さらには福島県の震災復興の一助となるべく、IT産業の「今」を発信するとともに、東日本大震災等からの復興に向けた様々なIT関連の取り組み・活動を紹介しました。

開催日:平成24年10月12日(金) 会場:会津大学



(基調講演 伊東氏)

(特別講演 高原氏)

基調講演

「日本再生のシナリオ -ICTと多様性で価値創造経済へ-」
 (株)富士通総研 相談役 伊東 千秋 氏

特別講演

「新世代ネットワークと災害対応の新たな視点」
 日本電信電話(株) 未来ねっと研究所 所長 高原 厚 氏



大学発ベンチャー
 ポスター展示

分科会の様子

産学連携フォーラム 会場:会津大学UBIC

【第1回】セキュリティセミナー

- ◆開催日:平成24年12月14日(金) ※(株)Eyes, JAPAN共催
- ◆講師: ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ(株) 藤村 聡 氏・松並 勝 氏

【第2回】講演会「情報技術の変遷と今後の展望」

- ◆開催日:平成25年1月17日(木) ※会津若松市共催
- ◆講師: 日本ユニシス(株) 保科 剛 氏

【第3回】SIGGRAPH 2012 Report/CG上映会

- ◆開催日:平成25年1月25日(金) ※(株)Eyes, JAPAN共催
- ◆講師: 会津大学 マイケル コーエン 教授・(株)Eyes, JAPAN 山寺 純 氏



企業との協業による教育活動

会津大学では、会津藩校日新館(*)の精神を新しい時代に活かし、イノベーションに挑戦する精神と技術力を持つ創業意識の高い若手人材育成に取り組んでいます。

(*)会津藩校日新館は、幕末会津藩の最高学府で、教育の重要な役割を担っていました。

白虎隊士や新島八重の兄(山本覚馬)など、優秀な人物を多数輩出し、全国に数ある藩校の中でも屈指の教育機関であったといわれています。

国際IT日新館

～会津発グローバルITリーダー育成プログラム～

国際IT日新館は、海外からの留学生をグローバルITリーダーとして育成するための教育プログラムです。

大学が地域のベンチャーや国内有力企業と連携し、「会津の教え」「企業の教え」を会得した人材の育成に取り組んでいます。平成24年度は、中国(7名)、ベトナム(7名)、インド(1名)、スリランカ(1名)、エルサルバドル(1名)の留学生がこのプログラムに参加しました。

国際IT日新館は、平成23年9月に終了した経済産業省事業「アジア人財資金構想『国際IT日新館』」の自立化によるもので、平成23年10月に開始したプログラムです。



会津IT日新館

～ベンチャー人材育成プログラム～

会津IT日新館は、大学が自治体と地域のベンチャーと連携して行う授業で、地域や企業のニーズに対応したテーマを持つベンチャー体験工房群を構成し、挑戦する精神と技術力を持つ人材育成に取り組んでいます。

ベンチャー基本コース

ベンチャー基本コースは、より実践的なビジネス知識が習得できるように、「知識編」と「講義」で構成された授業です。

「知識編」では、ビジネスに関連した知識を系統的に学び、ベンチャー精神育成に必要な知識を習得することができます。「講義」では、各分野で活躍している多彩な外部講師によるタイムリーな話題に触れることができます。



ベンチャー体験工房

ベンチャー体験工房は、実践的な教育手法として注目されているPBL(プロジェクト形式の課題解決型学習)を取り入れた授業です。

大学や地域、企業の課題を見つけ、チームで一つの開発テーマに取り組み、実行します。

また、企業の技術者から直接指導を受け、ベンチャー創業活動や産業界での実務に近いソフトウェア開発などの疑似体験をします。



各種講習会

新たなビジネス展開と地域産業の振興を支援するために、ITに関する各種講習会を実施しています。また、最先端のシステムを無料または低料金で提供することで産業の支援を行っています。

IT講習会

UBICのシステムエンジニア(SE)が講師となり、少人数制の各種IT講習会を開催しています。

また、平成23年度からは、会津SLF協議会との共催によるIT講習会を実施し、IT関連産業の即戦力となる人材育成に向けて取り組んでいます。



※会津SLF協議会(会津ソフトウェア・リンケージ・ファーム協議会)について
福島県及び会津地域自治体の協力の下、会津大学、会津大学発ベンチャー、福島県内のIT関連企業が相互に連携しながら、即戦力となる人材育成に取り組まします。人的基盤の確立による地域IT企業の競争力強化を図り、成長産業であるIT関連産業の基幹産業への転換と会津地域の経済・雇用の活性化を目的としています。

一日無料体験

『福島県民の日』及び『会津大学オープンキャンパス(春・秋の年2回)』の期間中に、UBICの運動解析室(モーション・キャプチャシステム)の無料体験を実施しています。



3Dシアターでは、迫力ある立体映像を体験できます。



オープンキャンパスの様子。
家族連れなど沢山の利用者でにぎわいます。



運動解析室では、人や物の動きをコンピュータに取り込む技術を気軽に体験できます。

※平成25年度の各種講習会については、開催日程等の詳細が決まり次第、ホームページ等で随時お知らせします。
※UBICメーリングリストにご登録いただければ、個別にお知らせメールをお送りいたしますので、是非ご利用ください。

【メーリングリスト登録方法】(以下いずれかの方法でご登録ください。)

- ① UBICホームページの登録フォームからお申込みください。URL: <http://www.ubic-u-aizu.jp/>
- ② 氏名、職業、メールアドレスを明記の上、Eメールにてご連絡ください。✉ ubic-adm@ubic-u-aizu.jp

共同研究等の制度

共同研究等の制度をご利用の際には、コンピュータ理工学を専門とする教員(約110名)の中から、研究テーマに最適な教員を選定します。どうぞお気軽にご相談ください。

■ 共同研究

共同研究とは、企業等の外部機関の研究者・技術者と本学の教員とが共通のテーマについて研究を行う制度です。目的やご希望に応じて、以下の3つの形態から選択することができます。

- ① 研究に要する経費を受け入れて、本学の研究者が共通の課題について共同で行う研究
- ② 共同研究員を受け入れて、本学の研究者が共通の課題について共同で行う研究
- ③ 研究に要する経費と共同研究員を受け入れて、本学の研究者が共通の課題について共同で行う研究

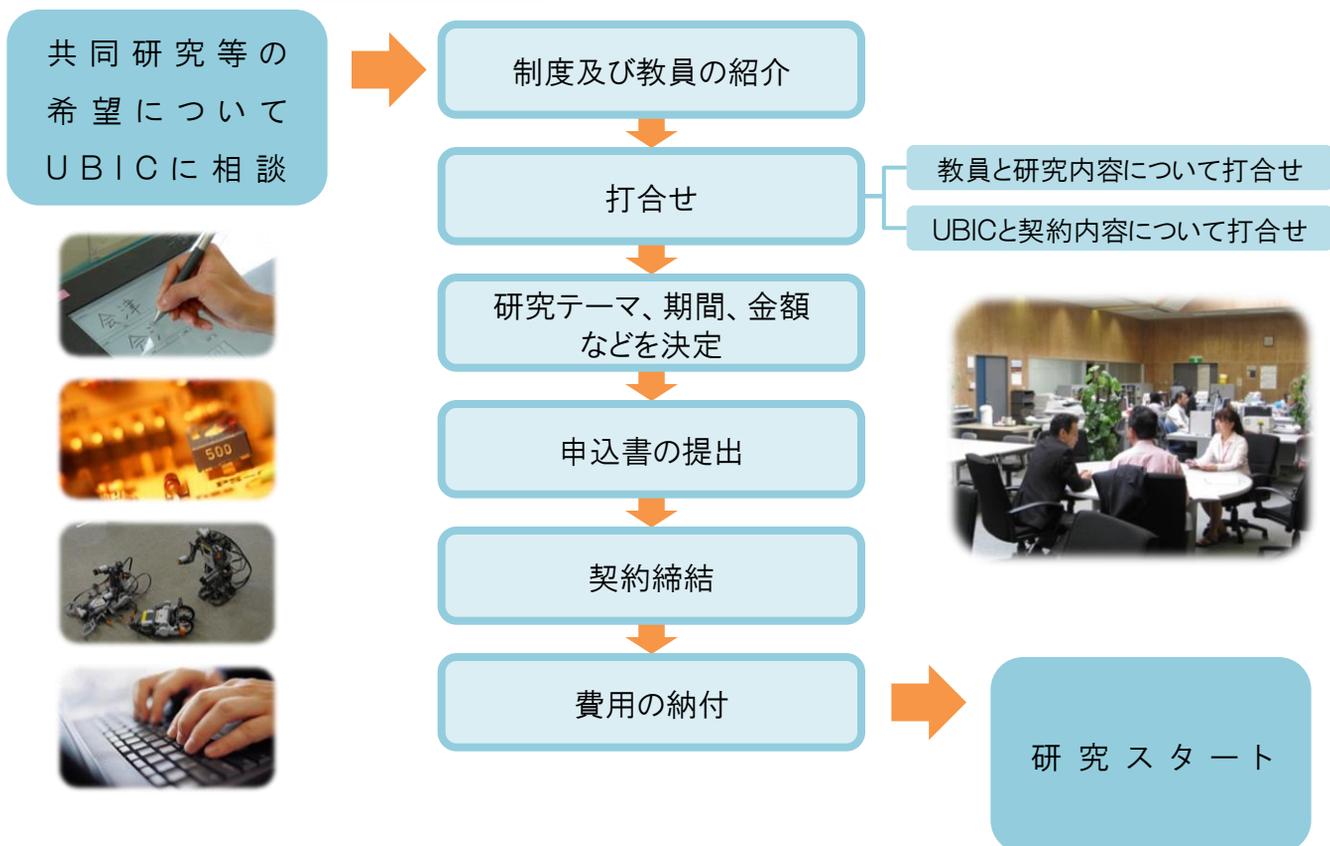
■ 受託研究

受託研究とは、企業等からの受託を受けて本学の教員が研究を行う制度です。これに要する経費は、委託者が負担することになります。

■ 奨学寄附金

奨学寄附金とは、教育及び学術研究の奨励に使用されることを目的に、企業等から寄附金を受け入れる制度です。

共同研究等の開始までのフロー



研究開発室

UBICでは、ITに関する研究開発を支援する施設として、企業等の皆様に研究開発室を提供しています。
(※現在は満室のため、新規入居者の募集は行っていません。)

■研究開発室の使用対象者

- (1) 会津大学の教員と共同でコンピュータソフトウェア又はハードウェアに関する研究開発を行う福島県内外の企業、各種団体、又は個人。(※毎年度更新、最長3年以内で利用可能)
- (2) 会津大学の教員又は学生が起業した法人(設立後5年以内の法人に限る)、又は起業しようとする個人。(※毎年度更新、最長5年以内で利用可能)

■研究開発室の概要

- (1) 部屋数: 4室
- (2) 面積: 24m² (1室)
- (3) 使用料: 420,000円 (1室1年)
- (4) 備品等: 机、椅子、電気、水道、ネットワーク
(※コンピュータおよび周辺機器、電話等の必要な機器については、使用者側で準備していただきます。)



研究開発室の入居者紹介

研究開発室に入居し、会津大学との共同研究等に取り組んでいる企業をご紹介します。

花咲けピクチャーズ株式会社

花咲けピクチャーズ株式会社(本社:東京都目黒区、代表取締役:勝野 明彦 氏)は、WEBコンシエルの開発・運用、iPhone・iPad・Android端末向けアプリケーション開発、アバター開発を行う会社です。平成23年6月から研究開発室に入居し、独自技術「STYLE SHARE[®]」の更なる開発等を行っています。



同社の「STYLE SHARE[®]」は、ファッションブランドのアイテムを自由に着せ替えて、コーディネート試着シミュレーションを行うことができる機能です。

WEBページに掲載されているデジタルアイテムをドラッグし、モデルにドロップするだけで自動的に全身コーディネートのシミュレーションをすることができます。これは、世界初の技術です。



アクセンチュア株式会社

アクセンチュア株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:程近智氏)は、経営コンサルティング、テクノロジー・サービス、アウトソーシング・サービスを提供するグローバル企業です。平成24年4月から研究開発室に設置したリモートテストセンターでアンドロイド端末向けのモバイルアプリ検証サービスを提供しています。

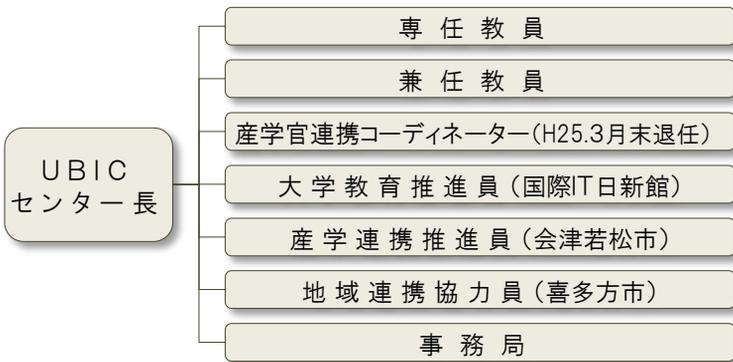


タブレットやスマートフォンのアプリ開発者はリモートテストセンターにアクセスすることで、国内唯一の実機実網を用いたアプリの動作検証サービスやテスト自動化サービスを利用することができます。

複数機種、複数バージョンのテストでも、場所や時間を問わず同時並行で実行することができ、大幅なテスト工数の削減を実現します。

組織体制

UBICでは、共同研究のコーディネートから発明・特許の管理まで、産学連携に必要なサポートを実施いたします。



産学官連携コーディネーター



もとすぎ つねはる
本杉 常治

東京都出身。NTT研究所にて約20年間、主に光ファイバ通信用半導体レーザーの研究実用化に従事。

その後、NTTの子会社にて光ファイバ

通信用ハイテク部品を国内、国外に販売する業務に従事。平成15年に文部科学省産学官連携コーディネーターとして会津大学に派遣され、平成25年3月をもって退任する。

退任 あいさつ

文部科学省のイノベーションシステム整備事業が平成24年度末で終了となるため、私は生まれ育った東京に戻ることになりました。会津を去るにあたり、お世話になった皆様にお礼申し上げます。10年間ありがとうございました。

本杉コーディネーターの退任後は、UBIC専任教員2名がコーディネート活動を行います。

専任教員



教授
いしばし しろう
石橋 史朗

担当業務:

- ◆会津地域を中心とした産学連携活動の推進
- ◆「会津IT日新館」ベンチャー基本コース担当

産学連携活動を進めていく中で、防災、環境、高齢化社会などの課題に、情報通信技術を少しでも役立てていければと考えています。また大学内外における教育活動を通じて、次の世代を担う若い方々の育成にも貢献できればと思っております。(石橋)



准教授
おほ ぐんは
王 軍波

担当業務:

- ◆大学発ベンチャーに関すること
- ◆「会津IT日新館」ベンチャー体験工房担当

会津地域を復興するため、会津大学の研究成果を生かし、ローカルベンチャー企業と連携し、会津発スマートフォンビジネス、スマートフォン・クラウドによるイノベーションに頑張っていきたいと思っております。また、会津地域の復興に寄与できるコア国際人材を育成したいと思っております。(王)

UBICホームページの「本杉COブログ」で、産学官連携活動を発信してきました。活動日誌の一部を抜粋してご紹介します。

2012年7月18日(水曜日) 13:52
産学官交流のつどい

毎年七夕様の頃に開催される会で、7月10日に開催されました。主催は福島県中小企業団体中央会、福島県電子機械工業会です。第28回のテーマは復興。会場は立ち見が出るほど盛況でした。川内村の遠藤村長が『復興に向けて～被災地の課題と今後の取り組み～』と題して講演し、全村避難の状況を紹介してくれました。次は『復興に向けて～これからの産・学・官・連携～』のテーマのパネルディスカッションでした。フロアから「福島県をこうしたい、という青写真を大切に」と発言があり、会場の賛同を集めました。禍を転じて福となす。震災をバネに前進したいものです。

2012年10月2日(火曜日) 13:39
イノベーション・ジャパン

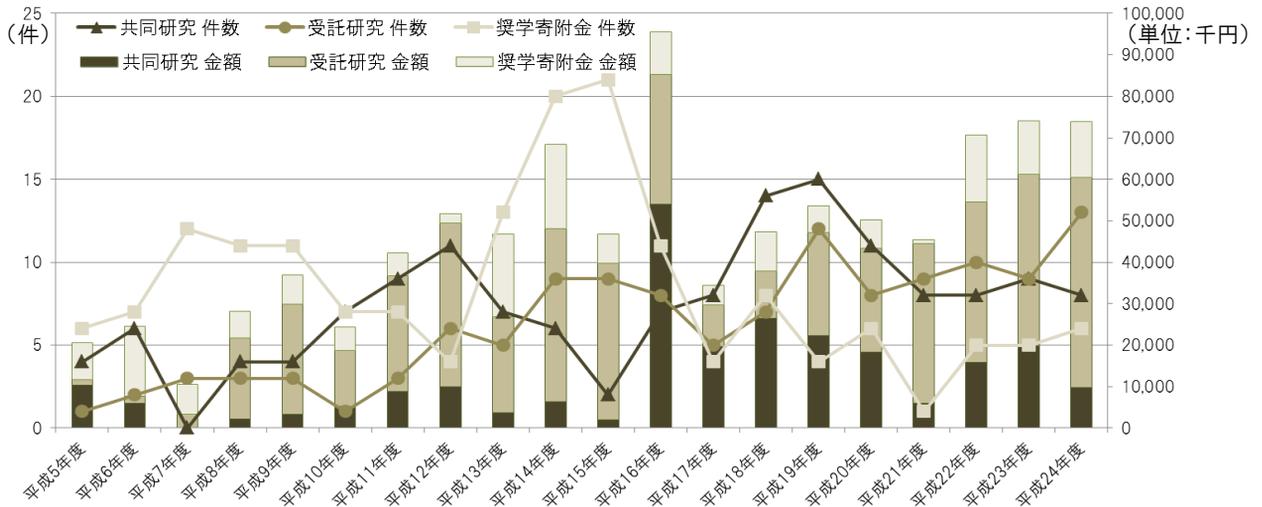
科学技術振興機構(JST)が主催する展示会で、9月27～28日に国際フォーラムで開催されました。大学の技術シーズを企業の皆様に公開し、企業ニーズとのマッチングを狙ったものです。会津大学は、合成画像の中に秘密情報を隠蔽する技術を発表しました。情報を隠蔽する技術として暗号が知られています。暗号は、暗号であることが簡単に判ってしまうので、悪意のある攻撃を受けやすい、という欠点があります。会津大学が発表した技術は、秘密情報を隠蔽した画像が自然なので、その中にえ判ったとしてもガードが堅く設計されているので、情報が漏洩しにくい、という特徴を備えています。クレジットカード、おサイフケータイなど、持ち主の認証が不可欠な用途への応用が期待されます。

2012年12月4日(火曜日) 15:44
展示会

11月は展示会月間でした。あちこちで展示会が目白押しで、会津大学が出展した展示会が会津若松市、福島市、郡山市、白河市、仙台市で7種類開催され、その期間は10日間に及びました。会津大学の研究室には技術説明員として研究室所属の学生を派遣してもらいました。会津大学の展示内容は好評で来場者の興味を引きました。こおりやまユニバーサルデザインものづくりフェアでは、介護ロボットなどへの応用を意識して開発中のもので、ビデオカメラで撮影したジェスチャーをパソコンが解析し、あらかじめ登録しておいたジェスチャーと照合して機器の制御を行うジェスチャー認識システムが優秀賞を受賞しました。この展示会では2回目の優秀賞受賞です。

共同研究等

平成25年3月1日現在



特許

平成25年3月1日現在

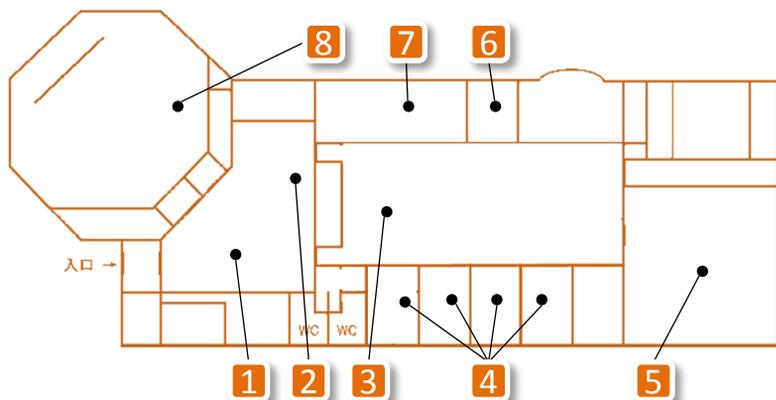
出願番号	発明の名称	登録番号
1 特願2003-279445	ネットワークを介したホスト間の通信方法(※株式会社ニセンエックスとの共同出願)	特許第3905067号
2 特願2003-432771	立体形状物の生成方法および立体形状物	特許第4675042号
3 特願2004-050349	カテーテル検査シミュレーションシステム	特許第4681242号
4 特願2004-067762	生体情報処理システム	特許第4633373号
5 特願2004-067782	生体センサ装置	特許第4633374号
6 特願2004-086903	インターフェース提示方法及びインターフェース提示システム	特許第4546125号
7 特願2004-155109	カメラ制御装置	特許第4593172号
8 特願2004-255617	身体状態監視装置	特許第4592360号
9 特願2004-283213	学習支援システム、学習支援方法およびそのためのコンピュータプログラム	特許第4579634号
10 特願2004-302035	心電図測定装置及び心電図測定システム	特許第4705358号
11 特願2005-056804	編集支援プログラム、プログラム変更の支援方法、プログラム編集の支援方法およびコンピュータ処理方法	特許第5164032号
12 特願2005-094651	瞬時装着型電極装置	特許第4671406号
13 特願2005-204020	自動支援システムおよび自動支援方法	特許第4832016号
14 特願2005-291717	呼吸心拍監視装置	特許第4863047号
15 特願2006-005599	対象物のタグ情報と位置情報とを特定するための無線ICタグ用タグ情報読み書きシステム	特許第5048247号
16 特願2006-034343	多変数決定木構築システム、多変数決定木構築方法および多変数決定木を構築するためのプログラム	特許第4997524号
17 特願2006-034344	多変数テスト関数生成装置、多変数テスト関数生成システム、多変数テスト関数生成方法および多変数テスト関数を生成するためのプログラム	特許第4997525号
18 特願2006-075524	音像定位装置及び音像定位方法(※株式会社タムラ製作所との共同出願)	特許第4689506号
19 特願2006-075525	音像定位装置及び音像定位方法(※株式会社タムラ製作所との共同出願)	特許第4949706号
20 特願2006-337242	利用人数算出システム、利用人数算出方法および利用人数算出用プログラム	特許第4936523号
21 特願2007-114211	月経周期推定装置および月経周期推定方法	特許第5099751号
22 特願2008-075279	ワンタイムパスワード認証システム、ワンタイムパスワード認証方法、ワンタイムパスワード生成プログラム、ワンタイムパスワード認証プログラムおよびワンタイムパスワード生成装置	特許第5164204号
23 特願2008-230593	センサ装置、センシング情報収集システム、センシング機能代替方法およびセンシング機能代替プログラム	特許第5099777号
24 特願2009-005682	画像パターンマッチング装置、画像パターンマッチング方法および画像パターンマッチング用プログラム	(審査請求済み)
25 特願2009-094620	アレイプロセッサ	(審査請求済み)
26 特願2009-144420	認証カード、カード認証端末、カード認証サーバおよびカード認証システム	(審査請求済み)
27 特願2009-297581	立体音響生成システム、その制御方法及び制御プログラム	(審査請求済み)
28 特願2010-103209	カンチレバーアレイを有する共振センサ装置	(審査請求済み)
29 特願2010-144368	認証カード、カード認証端末、カード認証サーバおよびカード認証システム	
30 特願2010-170828	複素型直交変調器、複素型直交復調器及びこれらに用いる直交ミキサ	
31 特願2010-232991	悪性ウェブコードの判別システム、悪性ウェブコード判別方法および悪性ウェブコード判別用プログラム	
32 特願2010-262195	ジェスチャ認識装置及びジェスチャ認識方法	
33 特願2011-018668	ストローク生成装置、ストローク生成方法、ストローク生成プログラム、文字生成装置、文字生成方法および文字生成プログラム	
34 特願2011-024333	画像生成装置および画像生成プログラム	
35 特願2011-093262	ホルダ認証システム、ホルダ認証端末、基底画像生成装置およびホルダであることの認証に利用される記録媒体	
36 特願2011-239897	体内臓器の動画像生成装置および体内臓器の動画像生成方法	(未公開特許)
37 特願2012-163332	動画像処理装置および動画像処理プログラム	(未公開特許)
38 特願2012-204403	センサネットワークシステム及びセンサネットワークシステムにおけるデータ取得方法	(未公開特許)
39 特願2012-227771	秘密情報隠蔽装置、秘密情報復元装置、秘密情報隠蔽プログラムおよび秘密情報復元プログラム	(未公開特許)

■開館時間

午前8時30分～午後5時

■休館日

土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始



無料施設



1 エントランスホール



2 PC体験コーナー

インターネットが利用できるパソコンを4台設置しています。



3 オープンスペース

会議用の机、椅子、プロジェクタを設置しています。無料で開放していますので、ミーティング等でお気軽にご利用いただけます。

▲(エントランスホール) 技術相談や共同研究の打合せ、あるいは情報交換や休憩等にご利用いただけます。ビジネス書を中心とした約300冊の蔵書を自由に閲覧することのできるスペース(会津IT日新館ライブラリー)があります。

有料施設

(事前申込制)

- * 申請書はUBICホームページからダウンロードできます。
- * 使用する施設・システムの空き状況については、電話、Eメール等によりお問い合わせください。
- * 使用単位中「1回」とあるのは、次に掲げる時間です。①8:30～12:30 ②13:00～17:00



4 研究開発室

使用料 420,000円/1室1年



5 運動解析室

使用料 15,750円/1回

人間の動きをデータとしてコンピュータに取り込むことができ、スポーツ技術の向上、リハビリ器具の開発、伝統芸能の保存などにご利用いただけます。



6 CG制作ルーム

使用料 270円/1システム1時間

3DCG制作、2DCG制作、アニメーション制作、モーションキャプチャデータの3DCG化が可能です。

▲産学連携の拠点として、研究開発室を4室用意しています。ITに関する研究開発を行うことができます。(※詳細は10ページをご覧ください。)

7 セミナールーム

使用料 21,000円/1回

20台のパソコンと50インチディスプレイ3台により、インターネット・プログラミング・イントラネット・MS Office等の各種講習会にご利用いただけます。また、UBIC主催の講習会も開催しています。



8 3Dシアター

使用料 21,000円/1回 (50人程度入場可能)

高輝度高精細液晶プロジェクタ、200インチスクリーンを使ったセミナーの開催、その他プレゼンテーションの場としてご利用いただけます。



平成25年3月、会津大学のコンピュータ・ICTの専門性を活かし、東日本大震災からの確かな復興を支援するセンターを設立しました。

会津大学復興支援センター

福島県のICT拠点として、被災地域の復興と再生に資する新しい産業の創出を目指し、その中核となる技術開発と人材を育成します。

ふくしまの安心な未来に、会津大学ができること。

Mission

会津大学復興支援センターは、福島県・会津地域の復興のために、新たなICT産業、革新性のあるICT事業を創出し、ICTを活用した地域産業振興を担う企業を集積・支援し、これらを担うICT人材を育成していきます。

柱

- ①先端ICT研究の実行
- ②革新を生み出す場の提供
- ③ICT人材の創出

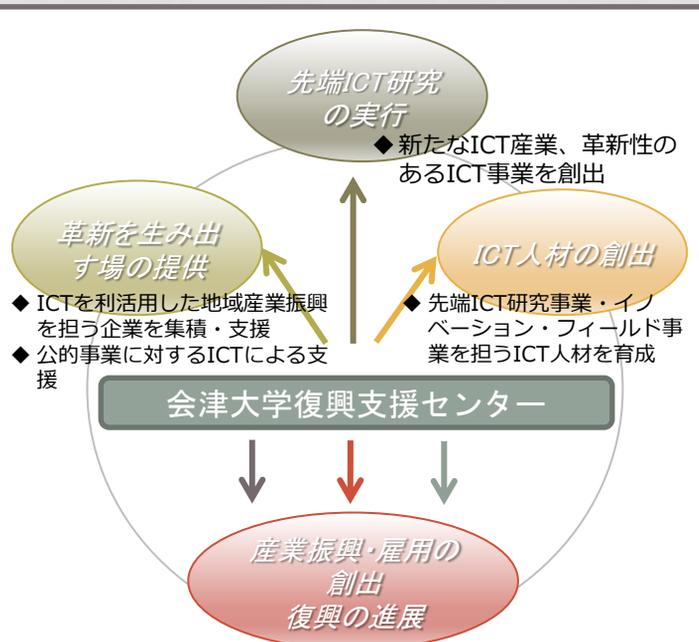
復興支援の取り組みを教育にも！

『クラウドを核とした先端ICT研究と人材育成事業の有機的連携によるイノベーション創出』

経済産業省「産学連携イノベーション促進事業【復興枠】」に会津大学の事業テーマが採択されました。

これは、会津大学の先端情報技術を活かし、東日本大震災からの復興と発展に資する新産業の創出に向けた取り組みです。

ICTを活用したエネルギー管理・制御システムの構築、ビッグデータの分析による新たなビジネス展開などを視野に、関連する分野の著名な企業や地域と協力しながら研究を進めると共に、蓄積されたノウハウを大学の授業に取り入れるなど、研究の成果を教育の場にも速やかに反映させていくことを目指しています。



<<福島県の復興への寄与>>

- ◆ 先端ICTの研究による新たな産業の創出
- ◆ 実践的ICT人材の育成と雇用創出
- ◆ 県民健康調査等に対するICTの観点からの全面的支援
- ◆ 教育・研究活動を通じた復興への支援と学生の参加
- ◆ 国際性を活かした復興支援活動

[連携協定締結企業]



お問い合わせ

会津大学復興支援センター

〒965-8580 福島県会津若松市一箕町大字鶴賀字上居合90

(電話)0242-37-2533 (FAX)0242-37-2546

(E-mail) revitalization@u-aizu.ac.jp

TORUS KNOT

人気ブランドCOACHの米国本社(NY)工房に眠っていた余剰レーザーや、COACH製品を特徴づける金具部品「ターンロック」をアートにリサイクルしたオブジェ「トールスノット」は、新しい目的を与えられた素材の“Rebirth(再生)”を表現しています。復興支援センター(仮称)の趣旨に賛同したコーチ・ジャパンから、会津大学に寄贈されました。

東北復興のシンボルに！

会津大学産学イノベーションセンター(UBIC) University-Business Innovation Center

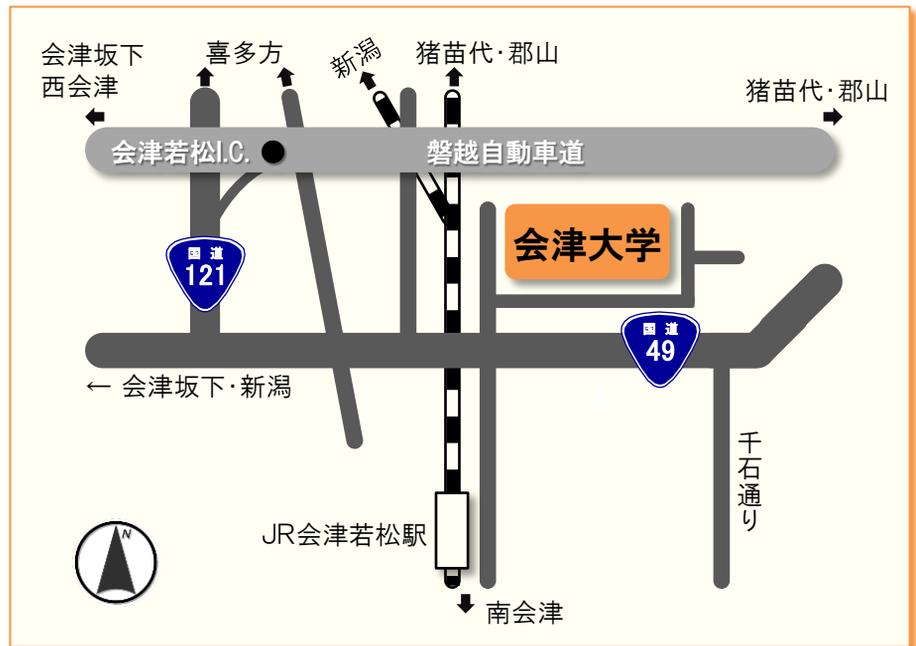
住所 〒965-8580 福島県会津若松市一箕町大字鶴賀字上居合90

電話 0242-37-2776 **FAX** 0242-37-2778

Eメール ubic-adm@ubic-u-aizu.jp

HP <http://www.ubic-u-aizu.jp/>

大学周辺マップ



大学構内図

